

第5次寒河江市振興計画基本構想

『歴史と文化の織りなす 気品た^まだ^ちよう美しい都市 寒河江』

第5次振興計画の体系

- 基本的な課題**
- 1 人と自然が共生した美しい風土の継承
 - 2 地域経済と情報通信ネットワーク社会
 - 3 少子高齢社会の到来と進展
 - 4 安全で安心して暮らせる地域社会の実現
 - 5 次世代を担う人材育成
 - 6 広域的な視野にたった新たな地方自治の実現

寒河江市の将来都市像

『歴史と文化の織りなす
気品ただよう美しい都市^{まち} 寒河江』

「より美しく」「より豊かに」「より元気に」

- 第 節 景観と歴史・文化の融合を図り、品格ある社会をめざす
 - 1 歴史と文化を生かした美しい景観の形成
 - 2 文化の薫りとゆとりある豊かな暮らしの形成
- 第 節 夢はずみ、希望に満ちた都市をめざす
 - 1 田園と都市とが共生する土地利用の推進
 - 2 次世代へつなぐ道路交通体系の構築
 - 3 快適で活気ある居住空間の提供
- 第 節 活力に満ちた産業の創造
 - 1 競争力に強い農業経営基盤の確立
 - 2 新たな観光産業の創出
 - 3 活力ある工業の振興と雇用の創出
 - 4 人行き交い、賑わいある商業の振興
 - 5 地域経済の活性化と新たな産業の創出
- 第 節 いきいきと健康で安心できる地域社会の創造
 - 1 すこやかな成長と生きがいある地域社会の形成
 - 2 生涯を通して健康で明るい生活の実現
 - 3 充実した医療体制による安心な暮らしの提供
- 第 節 市民自らの手による地域社会の創造
 - 1 市民参加による協働のまちづくり
 - 2 市民による地域社会の形成
 - 3 安全安心な地域づくり
- 第 節 21世紀を担う人材の育成
 - 1 美しく豊かで元気な心を育む人づくり
 - 2 郷土を愛し、次代を担う子どもたちの育成
 - 3 地域主体の活動による心豊かな人づくり
 - 4 国際社会に対応した地域と人づくり
- 第 節 自らの責任で自立した市政をめざす
 - 1 行財政改革と市政運営
 - 2 広域的視点にたった市政の展開

目 次

第1章 基本的課題について	1
第2章 基本構想について	3
第 節 景観と歴史・文化の融合を図り、品格ある社会をめざす	3
1 歴史と文化を生かした美しい景観の形成	3
2 文化の薫りとゆとりある豊かな暮らしの形成	4
第 節 夢はずみ、希望に満ちた都市をめざす	4
1 田園と都市とが共生する土地利用の推進	5
2 次世代へつなぐ道路交通体系の構築	5
3 快適で活気ある居住空間の提供	6
第 節 活力に満ちた産業の創造	6
1 競争力に強い農業経営基盤の確立	7
2 新たな観光産業の創出	7
3 活力ある工業の振興と雇用の創出	8
4 人行き交い、賑わいある商業の振興	8
5 地域経済の活性化と新たな産業の創出	9
第 節 いきいきと健康で安心できる地域社会の創造	9
1 すこやかな成長と生きがいある地域社会の形成	10
2 生涯を通して健康で明るい生活の実現	10
3 充実した医療体制による安心な暮らしの提供	10
第 節 市民自らの手による地域社会の創造	11
1 市民参加による協働のまちづくり	11
2 市民による地域社会の形成	11
3 安全安心な地域づくり	12
第 節 21世紀を担う人材の育成	12
1 美しく豊かで元気な心を育む人づくり	12
2 郷土を愛し、次代を担う子どもたちの育成	13
3 地域主体の活動による心豊かな人づくり	13
4 国際社会に対応した地域と人づくり	13
第 節 自らの責任で自立した市政をめざす	14
1 行財政改革と市政運営	14
2 広域的視点にたった市政の展開	15

第1章 基本的課題について

1 人と自然が共生した美しい風土の継承

本市の美しい自然や生態系の保全に努め、人と自然との共生のなかで、花と緑、せせらぎで彩るまちづくりをこれまで推進してきました。

そして、多くの市民の手によるフラワーロードの実施や花咲かフェアの開催を実現し、美しい景観形成を図ってきたところです。

引き続き、花と緑のある豊かな生活環境の創造に努め、今後とも整備を進めていくとともに、自然と環境に調和した地域社会を構築する必要があります。

また、それぞれの地域の文化や歴史的資源を守り、生かしながら、心豊かな人づくりに努め、より品格のあるまちづくりを推進していく必要があります。

2 地域経済と情報通信ネットワーク社会

地域経済の進展を図るためには、都市基盤の整備を推進し、地域産業の振興や優良企業の積極的な誘致を行い、雇用の拡大と所得の向上を図る必要があります。また、民間活力の利活用や企業等の新分野への進出、起業家への支援、さらに、労働力の強化を図るため、これまでの経験や英知を発揮し、積極的に社会参加できる場を形成していく必要があります。

さらに、誰もが広く情報通信ネットワークを利用することが可能となることから、市民のライフスタイルをはじめ、社会生活が多様に変化しており、これに対応できる産業の構築と環境づくりを行う必要があります。

3 少子高齢社会の到来と進展

全国的に少子高齢化が進行し、人口減少社会が到来しようとしています。山形県においても同様に急速な進展が見られ、本市にとっても例外ではありません。

少子高齢化によって社会構造は大きく変化していくものと予想され、生産年齢人口の減少による税収減少、高齢者の増加による福祉・医療等の経費の増加など、現在の住民サービスの維持が難しい状況になっていくことが懸念されます。

このようなことから、様々なイベントの開催や美しい街並み形成と雇用の場の創出を図り、交流から定住へと結びつけ、すべての人々が健康で暮らせる地域社会の構築を図ることが必要となります。

4 安全で安心して暮らせる地域社会の実現

子どもからお年寄りまで、誰もが安全に安心できる生活を望んでおり、健康で、やすらかに暮らせる地域づくりを行っていく必要があります。

また、自然災害をはじめ、交通事故や犯罪被害など、日頃から防災や防犯対策として、多岐にわたった取り組みが必要となります。

そのため、市民意識の高揚と防災防犯組織の育成、強化を図っていく必要があります。

5 次世代を担う人材育成

少子高齢社会や情報化社会の到来により、社会構造はめまぐるしく変化しています。このような状況のなかで、核家族化や高齢化の進展は、地域の仕組みを大きく変えようとしています。

そのため、次代を築いていく子どもたちが、いきいきとのびのびと成長するためには、新しい時代の変化に対応した教育環境づくりが大切となります。

また、市民一人ひとりが生涯を通して、学び、楽しむ地域づくりや国際化社会に対応できる人づくりが必要となります。

6 広域的な視野にたった新たな地方自治の実現

地方分権や三位一体の改革などにより、地方の権限と責任が大幅に拡大し、真に住民に必要な行政サービスを、地方自らの責任で自主的、効率的に選択できる幅が広がってきています。

また、市民生活のニーズは広域化、多様化、高度化しており、新たな行政課題として、広域的視点で行政のあり方を検討する必要があります。

さらに、健全で効率的な市政運営を図っていくためには、行財政改革を断行するとともに、市民・企業・行政が連携し、地域をともにつくる協働社会を構築する必要があります。

第2章 基本構想について

・ 将来都市像

「歴史と文化の織りなす 気品ただよう美しい都市^{まち} 寒河江」

・ 実現に向けたまちづくりの指標

「より美しく」、「より豊かに」、「より元気に」

・ 計画の期間

平成18年度を初年度とし、平成27年度を目標年度とする。

第 節 景観と歴史・文化の融合を図り、品格ある社会をめざす

寒河江市は、月山・葉山の麓に位置し、山形県の母なる川、最上川と清らかな寒河江川に囲まれ、美しい山並みや花、緑、せせらぎで彩られた街並みが、寒河江ならではの景色を映しだします。また、豊かな自然に恵まれた暮らしは、人々のこころにやすらぎを与えてくれます。

このような美しい景観は人々の心を豊かにし、多様な文化を生み出す舞台となり、そこで育まれた独自の芸術や文化が一体となったなかで、より品格のあるまちづくりを推進します。

また、寒河江市は、悠久の時を刻む歴史と古くから伝わる民俗芸能や伝統行事などの生活文化によって織りなす美しいまちを築いてきました。今もなお暮らしのなかに連綿と息づいています。

これらの文化的資産を後世へ伝えるとともに、新たな文化を創造し、すべての市民が誇りを持つまちづくりをめざします。

1 歴史と文化を生かした美しい景観の形成

寒河江市の景観は、四季折々にその表情を変え、市民生活の営みに恵みとやすらぎを与えてきました。これまで、美しい景観を保全するとともに、優れた景観を形成していくことを目的として、寒河江の景勝地「寒河江十景」を選定しました。今後、これらの美しい景観を大切にするとともに、各地域の景観にも配慮したまちづくりを推

進していきます。また、すでに先人の優れた文化遺産等を後世に伝える「ふるさと歴史百選」を選定していますが、これらの利活用を図り、寒河江の歴史をもっと身近なものとして継承していきます。

市内のそれぞれの地域には、人々に懐かしさとやすらぎと歴史の重みを与える伝統的な街並み空間があります。それらを、後世に伝え、残していくため、地域の歴史を学び、住民と行政がパートナーシップを組み、品格あるまちづくりを創出していきます。

また、全国都市緑化やまがたフェアの開催を契機とした市民のボランティアによる花咲かフェアの継続的な開催は、訪れる多くの人々に感動とロマンを与えました。引き続き、これを実施していくとともに、全市をあげての花いっぱい運動を展開し、花や緑の香りが漂うまちづくりを創出していきます。

ランドマークとなっている寒河江公園については、市街地居住者をはじめとする多くの人々に、憩いの場として定着していることから、アクセス道路の整備を図り、それら沿線の街並み再整備を図ります。

寒河江市の「木・花・緑」を冠する街路として、「さくらんぼ通り」、「つつじ通り」、「ギボウシ通り」、さらには、「せせらぎ通り」を命名し、これらが一体となった新たな本市の顔として情報発信していきます。

2 文化の薫りとゆとりある豊かな暮らしの形成

美しい自然景観は、住む人々や訪れる人々にゆとりとやすらぎを与え、こころを豊かにしてくれます。

豊かな暮らしは、物質的な充実感だけではなく、文化的活動やスポーツ・レジャー、グラウンドワークや社会奉仕活動への参加等、市民個々の余暇活動の充実感によって達成されます。

そのため、芸術文化情報やスポーツ情報の集積と提供、また、歴史美術館の設置などにより鑑賞機会の拡充に努め、ゆとりのある豊かな暮らしの形成を図っていきます。

第 節 夢はずみ、希望に満ちた都市をめざす

古くから、山形盆地は舟運や陸路の発達により、京都をはじめ、庄内地方や宮城県、福島県とも結ばれ、様々な交流が行われてきました。寒河江市においては、古くは藤

原家の荘園であり東北有数の古刹である慈恩寺を配し、交易が盛んに行われ経済的にも重要な地域であったといわれてきました。

現在も、本市は、高速道路や幹線道路によって周辺市町村や隣接各県との連携が強化されており、交通の要衝となっています。そうした地域特性を生かし、高速交通施設とそれらを結ぶ国道や県道、さらに、それを補完する内環状道路などの都市計画道路、日常生活に直結する市道との連結を図り、利便性の向上を図っていきます。

また、地域特性や独自の文化を大切にしながら市民生活の基盤整備を行い、自然や景観に配慮したまちづくりを進めていきます。

1 田園と都市とが共生する土地利用の推進

地域の特性に合った適正な土地利用が求められており、地域産業の発展の基礎となる都市整備を進める一方、美しく、豊かな自然環境を大切にした有効な土地利用を進めていきます。

市街地の整備については、商業や工業の集積を図っていきます。都市構造の再編とあわせ、商業施設の集積を図り、神輿の祭典をはじめとする各種イベントの開催を推進し、賑わいのある魅力に満ちた都市基盤の整備を進めていきます。また、街並みを彩るモニュメントと都市施設を融合し、未来へ向けた都市空間の形成を図ります。

各地域における生活環境整備については、本市の美しい景観の保護に努めていきます。とりわけ、農村地域における生産・生活基盤については、多面的機能を有した市民共通の貴重な財産であり、住民参加による新たなコミュニティを築き、維持管理や環境保全活動に努めていきます。

さらに、やすらぎと潤いのある快適な環境を推進するため、緑資源や水環境に配慮した豊かなまちづくりを構築していきます。

また、里山は住民の生活と生産に欠かせない存在であることから、身近に緑に親しむことのできるよう、地域資源の利活用を図っていきます。

森林は、水資源の涵養のみならず、土砂崩壊等を防ぐ国土保全の機能や多様な生態系の生息空間としての機能を有しており、貴重な環境資源として保全に努めていきます。

2 次世代へつなぐ道路交通体系の構築

これまで、まちづくりの骨子として、チェリークア・パーク、寒河江駅前を主とす

る中心市街地、チェリーランド、そして、慈恩寺の4つの核の構築とそれらを結ぶ都市軸の形成を図ってきました。

都市化の進展を図るためには、より一層の人的・物的交流を高めていく必要があり、高速交通網と一体となった内環状道路の整備促進や中心市街地周辺の宅地開発とあわせてアクセス道路の整備を図り、導線のわかりやすい都市空間の形成に努めていきます。

さらに、都市と農山村地域を連結し、道路を利用する人々の安全を考えながら、利便性の向上と安全な道路交通体系を構築していきます。

また、広域行政圏を視野に入れ隣接する主要幹線道路の整備に努め、特に、県都山形市とを結ぶ国道112号の整備促進を図っていきます。

3 快適で活気ある居住空間の提供

少子高齢化による人口減少社会を迎えようとしている状況のなかにあって、活力あるまちづくりを進めるためには、その基礎をなす人口増加の方策を図っていく必要があります。

そのため、土地区画整理事業や土地開発公社による宅地開発を推進していきます。また、花と緑いっぱいに囲まれた公園や生活道路の整備を図り、市内随所で、爽やかなせせらぎの瀬音が聞こえる河川空間の創出を行い、活気にあふれた魅力あるまちづくりの情報を市内外に発信し、安全で快適な、利便性の高い、しかも、低廉で優良な住宅地を提供していきます。

第 節 活力に満ちた産業の創造

ライフスタイルの多様化や情報化の進展など社会経済が大きく変化するなかで、寒河江市のまちづくりを推進していくためには、産業振興を促進し人口の増加に努め、時代のニーズに対応した産業の展開を強化していく必要があります。

そのため、技術交流プラザや中心市街地活性化センターを中核施設として利活用を図り、幅広い人的交流や研修を通して質の高い人材の育成に努めるとともに、魅力ある産業を創出し、働く喜びを実感する環境づくりに努めます。

活力に満ちた地域社会の実現へ大きな牽引力となる情報通信ネットワークの向上によって、いつでも、どこでも、誰でもが利用可能となる社会が到来し、産業構造の

急速な変化や高度化をもたらし、新しい技術の開発などによる付加価値の高い事業活動の展開が予想されます。そのため、農業、観光、工業、商業相互の幅広い結びつきを強め、本市の地域特性を生かした産業基盤の強化を推進し、活力に満ちた産業の創造をめざしていきます。

1 競争力に強い農業経営基盤の確立

農業については、産地間競争が一層激化するなかで産地の差別化を図り、競争力に強い農業経営基盤を確立していく必要があります。

本市の主力作物であるさくらんぼについては、大玉で糖度が高く、また、収穫期間の延長できる紅秀峰をこれからの新たなブランド品として奨励していきます。また、これまでの技術向上に重点を置いた経営から、消費者や流通市場のニーズを踏まえた販売計画に力点を置く経営への転換を図り、新たな攻めの農業を展開していきます。

畑地化事業については「転作から本作へ」を基本に、団地化による地域振興作物の定着拡大と地域農業の活性化を図るため、「大豆、枝豆、ねぎ、アスパラガス、花木」を最重点作物として位置づけ、転作作物の振興を図ります。

また、米の生産については、清流寒河江川のきれいな水に恵まれたおいしい米の産地確立をめざします。

地域営農の確立については、意欲ある担い手の育成、確保を図るため、農地利用集積を推進しながら、規模拡大を支援していきます。

さらに、農地・農業用水とこれらに関わる施設を、市民共通の財産として維持する仕組みの構築をめざします。

2 新たな観光産業の創出

高速交通網の充実や個性的なまちづくりにより、あらゆる産業を包含した観光産業は、大きな経済効果と雇用の創出をもたらしています。

これまで、観光の中心としてきたさくらんぼについては、「紅秀峰の里 さがえ」に新たに取り組み、主産地として確立をめざします。

重要な文化財である慈恩寺舞楽や平塩舞楽、また、寒河江まつりの流鏝馬や各地域の田植踊りなどは、貴重な観光資源として情報発信に努めていきます。

また、大江広元代々の子孫が建立した楯や寺院などの関連史跡や幸生銅山跡、寒河江や柴橋にあった代官所跡、寒河江の祇園囃子など、ほかに見られない歴史文化遺産

の発掘に努め、新たな観光資源を創出していきます。

山岳信仰文化が育んだ出羽三山などの文化財の中で、慈恩寺は重要な位置を占めており、六十里越街道を軸として歴史や文化財を訪ねる「慈恩寺・出羽三山路」の開発を図っていきます。そして、これらと関連する葉山とこれに結びつく慈恩寺や平塩、臥龍橋、道者道などを結ぶ「歴史の道」の構築に努めます。

寒河江の温泉については、多様な観光客のニーズに対応するため、「温泉のまち寒河江」のイメージアップに努めます。特に、チェリークア・パークは葉山、月山、蔵王の山々、最上川といった大自然の中に囲まれた位置にあり、豊富な湯量を活用した民間活力による「温泉場」の開発に努めていきます。

さらに、スマートインターチェンジを活用した最上川ふるさと総合公園とチェリークア・パーク、最上川寒河江緑地が一体となった最上川沿岸スポーツ・レクリエーション基地を構築していきます。

また、高貴な香りが楽しめるハーブ公園の整備など、新たな観光資源の創出を図っていきます。

3 活力ある工業の振興と雇用の創出

工業を取り巻く環境は、国際競争の激化や高度情報化、市場ニーズの多様化など、大きく変化しております。こうした状況に対応するため、インフラ整備などの環境整備に努めるとともに、それを支える人材育成と雇用の場の確保を図っていきます。

また、企業間の新たな連携を促進し、各種展示会等への出展支援など、製品の宣伝や販路の拡大を図るとともに、新たな雇用に創出していくため、寒河江中央工業団地の拡大を進めていきます。

さらに、本市は交通網の要衝として地理的優位性を生かし、県内外からの優良企業の誘致を積極的に推進していきます。

4 人行き交い、賑わいある商業の振興

魅力ある商店街の形成を図っていくため、都市整備された寒河江駅前については、いこいの場としてのポケットパークなどを配し、アミューズメント性の高い商店街の形成に努め、本町通りや中央通りを含めた中心市街地については、専門店街の形成に努めます。

そして、中心市街地活性化センターを中心として、広域性の高い商業地を形成する

ため、美しい街並みや景観に配慮したまちづくりを推進します。

今後とも、集客力の向上を図るため、イベントや祭りの開催、また、歴史や文化を生かした広域的観光などを推進しながら、賑わいのある商業の振興に努めていきます。

5 地域経済の活性化と新たな産業の創出

本市経済の継続した発展を図り、また、市民の雇用の場を確保していくためには、その基盤となる産業の力を一層強めるとともに、集積を促進していくことが重要です。

市民生活や経済活動を行ううえで、経済のグローバル化による国際競争力の強化、少子高齢化に伴う本格的な人口減少社会における労働力の確保、地球温暖化に伴う自然環境の保全や循環型社会の構築など、さまざまな取り組みが求められているなか農業、商業、工業のすべての産業分野にまたがって、新たなビジネスの創出やサービスの提供が期待されています。

そのため、多様で活力のある産業構造の構築を推進するために、新事業の創出や新分野の創出にかかわる起業に積極的な支援を図っていきます。

第 節 いきいきと健康で安心できる地域社会の創造

少子化、高齢化及び核家族化（世帯分化）が急速に進展する中において、乳幼児からお年寄りまで、誰もが健康で安全に安心して暮らせる地域社会の形成が望まれています。特に、少子化の対応として、安心して子どもを産み育てられる環境を構築する取り組みが求められています。

また、健康で心豊かな生活のためには、普段の生活において健康を意識した生活習慣を心がけるように努める必要があり、それらを積極的に支援する取り組みや日常的な病気やけがの診療から、癌や脳血管疾患などの高度医療を必要とする診療まで対応する受診システムの確立への取り組みなどが求められています。

そのため、「子どもすこやかプラン(寒河江市次世代育成支援行動計画)」に基づき、着実に施策を進め、子どもを安心して産み育てられる地域社会の構築をめざすとともに、保健、医療、福祉及び介護の有機的な連携を図り、総合的に地域を包括できるケアシステムの確立をめざします。

1 すこやかな成長と生きがいある地域社会の形成

少子化の進行は、労働力人口の減少や社会保障分野における次世代の負担の増大ばかりでなく、子どもの健全な成長へ影響がでることが予想されます。

そのために、「子どもすこやかプラン」に基づき、次代を担う寒河江の子どもたちの健やかな成長を支援していきます。また、健康な子ども達を育てる母子健康医療の充実と保育基盤の強化を図っていきます。

また、人生80年時代という新しい年齢観から、高齢者といわれる方がこれまで培ってきた知識と経験を活かしながら、新たに産業に参加する環境づくりやボランティア活動などによる社会参加を創出し、生きがいのある元気なまちづくりをめざします。

すべての人々が、住み慣れた地域で生きがいをもって、豊かに安心して暮らせる地域社会の創造をめざします。

2 生涯を通して健康で明るい生活の実現

生きがいやうるおいのある充実した生活を送ることはみんなの願いであり、スポーツの果たす役割はますます大きくなります。また、余暇時間の増大や高齢化の進展など、多様な価値観や生活習慣にあわせ、気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めていかなければなりません。

そのため、健康・体力づくり教室の開設やスポーツのある生活の実現をめざし、コミュニティづくりを含め、地域住民が主体的に取り組む総合型地域スポーツクラブを創設・育成していきます。

そして、子どもからお年寄りまで、だれもが年齢や体力・技術に応じて、いつでも参加できる、地域住民による自主的なスポーツクラブの組織化、定着化を推進し、健康づくりに努めていきます。

3 充実した医療体制による安心な暮らしの提供

日常的な診療を行う一次医療については、寒河江市西村山郡医師会をはじめとする関係機関・団体との連携をとりながら、民間の医療施設の機能強化・拡充を推進していきます。

入院や専門的な診療を行う二次医療については、高齢化社会の到来などを背景に、医療ニーズが多様化、高度化していることや自治体病院の経営改革が必要なことから、全国的に自治体の区域を越えた病院の統合や再編による診療機能分担など、地

域医療体制の見直しが進展しています。

寒河江西村山地域においても一つの医療圏と捉え、地域医療へのニーズや医療資源の有効活用のため、広域的視点にたった自治体病院の連携と機能分担を図りながら、県と他町とともに地域医療体制のあり方を検討していくなかで、地域医療の充実と適切かつ効率的な医療サービスの提供をめざします。

第 節 市民自らの手による地域社会の創造

地方分権の進展に伴い、これからのまちづくりは、自主性、独自性が求められており、市民と共に新たな視点に立った地域社会づくりを一層進めていく必要があります。

そのため、市民、企業、行政がそれぞれの役割を果たしながら、協働のまちづくりを進めていきます。

また、市民自らが責任を持ち、参加するという自治意識により、住民が主体となった地域社会の形成を図っていきます。

1 市民参加による協働のまちづくり

これまで、フラワーロードの植栽活動や花咲かフェアは、多くの市民の積極的なボランティア活動によって成功に導かれてきました。また、各地域においては、グラウンドワークによる公園・緑地等の整備や植栽、河川の清掃などが行われています。

街が熱気と興奮に包まれる神輿の祭典は、今や東北一のみこし祭りといわれるようになってきました。子どもから大人まで一体となり、人と人とを結ぶコミュニケーションの役割を果たし、市民意識と連帯感が醸成された寒河江市の元気なまちづくりの原動力となっています。今後とも、さらに充実を図り発展に努めていきます。

こうした市民一人ひとりの力が大きな輪となり、様々な交流やふれあいから地域の豊かさを実感できるまちづくりを推進していきます。

2 市民による地域社会の形成

地域特性を生かした魅力ある地域づくりを構築するためには、これからは、住民一人ひとりが地域づくりの目標に向かって盛り上がり、地域力を高めていく必要があります。

地域活動の拠点となる町内会や地区公民館、分館活動については、住民自らが主体

となり構想を立て、企画し、実践するなど、住民が一丸となった盛りあがりのなかで地域のまちづくりを推進していきます。

地域の元気なまちづくり活動によって、連帯感や助け合いの精神を構築し、自分達の手による地域社会を創っていくよう努めていきます。

3 安全安心な地域づくり

安全安心な暮らしは、地域の連帯感により醸成されるものであり、市民一人ひとりが、安全安心な地域づくりをめざすことが重要なものとなります。

なかでも、安全安心な地域づくりを実現するうえで、地域の消防組織や防犯組織の果たす役割は一段と大きなものとなっており、地域の消防については、消防防災施設や設備等の整備を促進するとともに、引き続き、消防団員の活動環境の整備や住民の消防団活動への理解を深める施策を推進していきます。また、地域の防犯力を高め、児童や高齢者が犯罪被害に巻き込まれないよう防犯活動環境の整備や交通事故等のない、安全で安心な住み良い地域社会づくりに努めます。

予期できない自然災害への対策として、日頃からの災害に対する市民意識の高揚と地域社会の連携による地域防災力の強化を図るとともに、被害防止のため、的確な情報収集や提供に努め、災害に強い地域づくりをめざします。

第 節 21世紀を担う人材の育成

少子化が進むなかで、社会構造は大きく変化していくものと予想され、次の時代をより豊かに暮らせるように、教育や経済、地域活動など、様々な分野において活躍できる、新しい寒河江を背負って立つ人づくりを行っていきます。

そのため、家庭、地域、学校が連携し、市民一人ひとりが地域の歴史、文化の理解を深め、次世代を築いていく子どもたちがいきいきと成長できる環境を整備していきます。そして、郷土を愛する心を強め、郷土を誇れる人間性を育てていきます。

また、「世界のなかの寒河江市」という視点にたち、国際社会に対応できる人づくりを進めていきます。

1 美しく豊かで元気な心を育む人づくり

個人の尊厳、真理の探究、自律性や責任感、思いやりの心、公共の精神、規範意識、

感動する心、郷土愛、伝統や文化を大切にする心、豊かな教養など、大切にされるべき普遍的な価値があります。

寒河江市の人づくりについては、これらのことを基本とし、新時代を切り拓いていく人づくりをめざし、美しい心、豊かな心、元気な心の育成に取り組み、気品ある社会を構築していきます。また、新しい時代にふさわしい教育を具体的に展開し、実現するため、教育振興計画を策定していきます。

2 郷土を愛し、次代を担う子どもたちの育成

学校は、子どもたちが知識や言葉を学習する場としてあるだけではありません。地域の拠り所として、また、学舎として地域の象徴的施設であり、ここを中心に、子どもたちは地域の人々と一緒になって育ってきました。そこには、地域の歴史と文化があります。

子どもたちが、地域での祭りや行事、奉仕活動などに社会参加することにより、郷土愛を育むことができるよう環境づくりに努めていきます。

しかし、子どもたちは、一人ひとりが主体的に学び、生きていく力を身につけていくことも大切です。そうしたことから、学校と地域とが連携を図るとともに、地域において、子どもからお年寄りまで一緒に楽しく活動する機会を創出していきます。

そして、郷土を愛する子どもたちを育てていきます。

3 地域主体の活動による心豊かな人づくり

それぞれの地域にある公園や里山、神社仏閣、境内などは地域の拠り所であり、地域での活動を通して連帯感や教育力を高め、地域の文化が育まれてきました。

こうした文化を大切にするため、民俗芸能や伝統行事、祭りなどについては、地域住民が一体となって後継者の育成に取り組み、地域力と郷土愛を高めていきます。

また、地域における中核施設である公民館については、地域が主体となって運営し、地域活動やスポーツ活動を的確に支援できる新しいシステムを構築していきます。

4 国際社会に対応した地域と人づくり

これまで、寒河江市の国際交流である姉妹都市の交流として、大韓民国安東市とトルコ共和国ギレスン市と友好交流を行い、行政間はもとより、各種団体による相互交流により、文化や言葉の壁を越えて理解を深めてきました。

近年は、外国からの訪問客が多く訪れるようになり、産業や文化の振興に大きく寄与しています。本市においては、国際結婚や企業研修等により、定住する外国人の数が年々増加し、子どもから大人まで、国際色豊かな日常生活を過ごす機会が増えています。

今後、異なる文化や生活習慣への理解を深め、より一層外国人や外国語に触れる機会を提供し、国際社会に対応したまちづくりと国際性豊かな人づくりに努めていきます。

第 節 自らの責任で自立した市政をめざす

地方分権の時代においては、財政的にも制度的にも、国や県に依存する体制から脱却することが求められ、限られた財源と自らの判断による行財政運営を行っていかねばなりません。

そのため、行財政改革をより一層推進し、効率的で生産性の高い行財政の運営をめざします。

また、経済圏や交流の拡大により、広域的視点にたった市政運営を図っていきます。

多様化する住民ニーズに対し、行政サービスの向上を図るために、耐用年数などを考慮しながら、庁舎施設のあり方についても検討していきます。

1 行財政改革と市政運営

地方分権社会における自立した寒河江市の創出は、地域・企業・団体を含めた市民自らがまちづくりの主体となり、目標を共有し、それぞれの責任と役割を分担し、相互に協力し合い、豊かな未来を築いていくという市民と行政の新しい関係をめざします。

そのため、質の高いサービスを継続して提供し、効率的で生産性の高い行財政基盤の確立をめざします。

また、積極的に民間委託を進めるとともに、市民が主体となった事業の拡大を図っていきます。

さらに、職員一人ひとりが市民のパートナーとして、信頼が厚く市民と共に豊かな地域づくりをめざし、創意工夫と意識改革を図りながら行財政改革に取り組んでいきます。

2 広域的視点にたった市政の展開

高速交通網の充実や情報通信手段の発達に伴い、市民生活における行動圏は従来の枠を越えて拡大し、また、市民のニーズもますます広域化、多様化、高度化しています。このような、状況に対応するためには、効率的な行財政運営の構築と確かな財政基盤の確立を図るという視点から、既存の行政圏に留まらず、新たな枠組みも考慮しながら、市政の発展を見据えた施策を推進していきます。

特に、観光や産業の振興を図るため、仙台をはじめとする南東北や関東圏を視野に入れた広域的施策を展開し、交流の拡大と定住の促進を図っていきます。